宝物館

本殿のすぐ南に位置するこの銅板屋根の建物には、豊臣秀吉（1537-1598）に関連する多くの貴重な物が保管されている。フランク=ロイド=ライトの友人である著名な建築家、武田五一（1872-1938）によって設計されたこの建物は、1925年12月に開館された。日本における私立の博物館としては最も初期のもののひとつである。建築的には秀吉が生きた桃山時代（1568-1600）の日本の建築様式を模して設計されているが、実際には当時最も革新的な建築技術の一つであった鉄筋コンクリートでできている。そのため、この建物は20世紀初頭の建築デザインの優れた例として建築史家の注目を集めている。ここに保管されている貴重な宝物の多くは、神社が再興された19世紀末から20世紀初頭にかけて寄付されたもので、もともと神社の所有していたものや秀吉に深い関連のある品が様々な所有者から奉納された。